

折尾駅を描くと決まって取材をしている中で、私は駅舎・待合室の丸いイス・それにホームの天井・柱・ホームから見る風景・若松線・学園通りなどがどう変わるだろうかと思い描いてみました。

駅の歴史を目の中に残しています。
菊池 初代

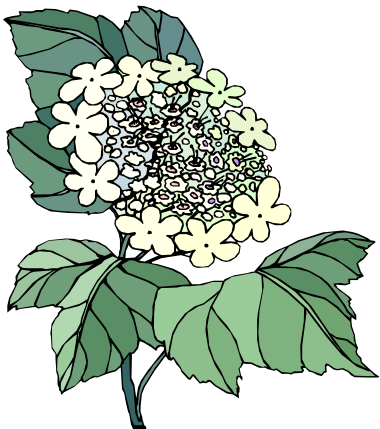
折尾に住むようになって27年、月の半分はJRを利用しています。5番ホームへの古い石段を昇った時のホームの屋根は実に素晴らしい。何枚か描き残しました。

皆で描いた駅の絵を、もう少し多くの人に見てほしかったです。

田代 洋子

幼い頃、父から「汽車が小倉駅に着いた時“ココダー、ココダー”の放送を聞き、折尾駅で“オリロー、オリロー”の声を耳にして汽車からあわてて降りた旅人がいたよ」との話しを聞いた。順番はさだかではないが、父の思い出と重なり折尾駅は心に残る駅名と駅舎です。

抜井 弘子



折尾駅が今年中に取り壊される予定と知り、私達生徒は現在の折尾駅の風景を形に残しておかねばと思い十二人が手分けして懐かしい風景を一人一人の思い出として絵に描き残しました。

関岡 マサ子

今迄私にはあまり馴染みのなかった折尾駅、今回スケッチをするためにカメラを持って駅の構内を歩いた。何故か初めてなのになつかしい気がしてシャッターを切った。古びた木組みの天井、毎日お客様が足早に歩く赤レンガの地下通路、又レトロな壁画、どこも何か心なごむそんな光景ももうすぐ新しい駅に生まれ変わる。

淋しい気がするがそれも時代の流れでしょうか・・・

南郷 菊代

折尾近郊の住宅地に移り住んで約30年になる。絵の教室で「テーマ」にそって10枚の課題が与えられた。題材を探して折尾の街を歩いてみて、街の急変ぶりにあらためて驚いた。

がんばれ、折尾の街！

花村 博正

「ゆめ広場」さんありがとうございました。おかげ様で「昭和の風景」をとどめる折尾駅周辺を描き残す事ができました。生徒のみなさんのいきいきとした絵にも感動です。

ただ、この企画の主役であった折尾駅の冷めた対応が残念でした。

スケッチ・淡彩「四季彩」主宰 西川 幸夫